

提出された意見の内容とそれに対する県の考え方

提出された意見	県の考え方
<p>(提案事項) 自動運転技術を活用した地域交通網の整備 (背景) 県内における既存交通手段の衰退に対する取組として。特に、近年津軽地域では JR 津軽線の存続問題、弘南鉄道のトラブル、目屋地区における弘南バスの減便や路線の統合など公共交通のひっ迫状態がたびたびニュースになっている。</p> <p>(事由) 提案事項が必要な理由として、人口の減少（日本国内の）問題が根本理由と考える。人口の減少により利用客が減り、結果として運営会社の経営を圧迫している面と、担い手不足（職員の人員及び人材が不足している）の点がある。</p> <p>(補足) ①ネットの書き込み等で、第三セクター化や周辺自治体の補助など意見があるが、運営組織に関係なく、運営により十分な利益が確保できて運行が継続でき、職員に十分な給与が支払えるサイクルを作れない限り、何処が資金をつぎ込んでも結果は同じである。 ②県のホームページに MaaS や DX を活用した改善とあるが、この場合改善ではなく、地域交通の根本的な構造を変えることであり、動き出しを早くしないと、津軽線のように『採算が取れないので廃線にします』となった時点で騒いでも、すぐに対応できるものでもない。 自動運転は国内ではまだ実用段階には程遠い状況は理解するが、乗客や職員の不足に左右されない地域交通の基盤づくりとして早期の対応を提案する。</p>	<p>【文章修正等】 本プラン P25「暮らし・まち分野」の地域公共交通の取組方針の三つ目について、「MaaS や AI オンデマンド交通など一人ひとりのニーズや各世代のデジタルスキルに合わせた新たな仕組みや自動運転など先端技術活用の検討」と修正しました。</p>